



## ビジネスリーダーの条件

2006年度卒業(経営戦略専攻) 春山 義

私がビジネススクールに入学して一番感じたことは、自分の思考が実務寄りになりすぎていたということでした。I B Aの講義を受けることでもう一度自分の頭の中を整理することができ、また新しい知識を得ることで、今まで見えてこなかった自社の問題点・経営課題が次から次へと発見できるようになりました。また経理という仕事柄なかなか社外の人と接する機会がなかった私にとってこの2年間はたいへん貴重な経験になりました。

在学中私が特に印象に残った講義の一つに「ファイナンス」があります。私の働いている会社では、投資の意思決定に会計上の収益率を使っています。会計の知識を身につければつけるほど、会計は真の数値を表していないことがわかってきていた私はこの意思決定方法に対し疑問を感じていました。しかし本当に正しい投資の意思決定はNPV法やリアルオプションを使うことで評価できるのを初めて知り大変な衝撃を受けました。

今後はより社会人教育が重要になってくると思いますが、MBAの知識はビジネスマンにとって必須の知識だと思います。ファイナンスやマーケティングといった技術的な知識だけでなく、企業倫理といったビジネスリーダーにとって今後より一層重要な知識を学ぶことができました。肉体的にはたいへんな毎日でしたが、毎回の講義が非常に刺激的で有意義な学生生活を送ることができたと思います。



## 企業会計と自治体実務

2006年度入学(会計専門職専攻) 岡崎 真弓

私は、石原先生が中心となって立ち上げられた「フォーラムKGP M」という自治体職員の主体的な学習とネットワーク形成のサポートを目的とした研究会に参加していたのがご縁で、自治体推薦制度により2006年4月に入学しました。自治体に就職して20年を過ぎ、出張研修先での稲沢先生との出会いや、KGP Mの自治体の方々との交流を通じて、もっと体系的に公会計や行政経営について勉強する必要性を痛感していた折に、制度改正で退職共済金の払戻しがあり、それが学費分だったという幸運も重なっての進学となりました。

大学院というと学究的なイメージがあるかと思いますが、アカウンティングスクールは、会計分野の資格試験を目指す方々が大勢来られていて、職業的専門家を養成するという目的にかなった豊富なカリキュラム編成となっています。

私自身は、自治体経営のこれからや企業会計という視点から、自治体の財政運営について実務に活かせる勉強を心がけています。

学生は、大学を3回生で卒業して進学してこられた若い方から、自らのキャリアアップを目指して、一旦仕事を辞めて進学された方、社会人学生でフェリーや新幹線を乗り継いで通われる方、定年退職後に進学された方など実に様々で、学習姿勢や生き方など本当に刺激を受けることが多いです。

私は、仕事を終えた後、授業開始の18時半に、職場から直行して丁度間に合う距離なので、大阪梅田キャンパスの授業を中心に受講しています。勉強時間はもっぱら早朝か、帰宅後の夜半になります。電車での移動時間中も集中力が高まります(笑)。限られた時間でどれだけ効率よく勉強するか、今まで以上に時間を上手に使うようになりました。もちろん、職場の理解や家族の協力と叱咤激励が大きな支えになっています。

